

変わりゆく社会に、変わらぬ安心を。変わり続けるセコム。

「あんしんプラットフォーム」構想

社会システム産業の構築をめざし邁進する中、セコムの方向性をより明確にすることで、社員に「誇り」を、お客様に「信頼感」を、すべてのステークホルダーにセコムの「将来性」を感じてほしいとの想いを込め、2017年に「セコムグループ2030年ビジョン」を策定しました。

「あんしんプラットフォーム」とは、セコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが技術や知識を持ち寄り、暮らしや社会に“いつでも・どこでも・誰にとっても・切れ目のない安心”を提供する社会インフラのことです。

社会課題が複雑化・複合化する中で、「安全・安心」はますます必要不可欠となり、一人ひとりが求めるニーズは、より多様化しています。セコムは「事件・事故」「サイバー犯罪」「自然災害」「病気・老化」といったリスクを想定し、平時における事前の備え、有事の事態の把握、被害の最小化、事後の復旧までの4つの要素を「セコムあんしんフロー」と定め、あらゆるリスクに対して“切れ目のない安心”を提供できるよう、サービスやシステムを進化させています。同時に「あんしんプラットフォーム」は、社会・お客様とつながり続けることにより成長し、つながり自体も強固になっていきます。

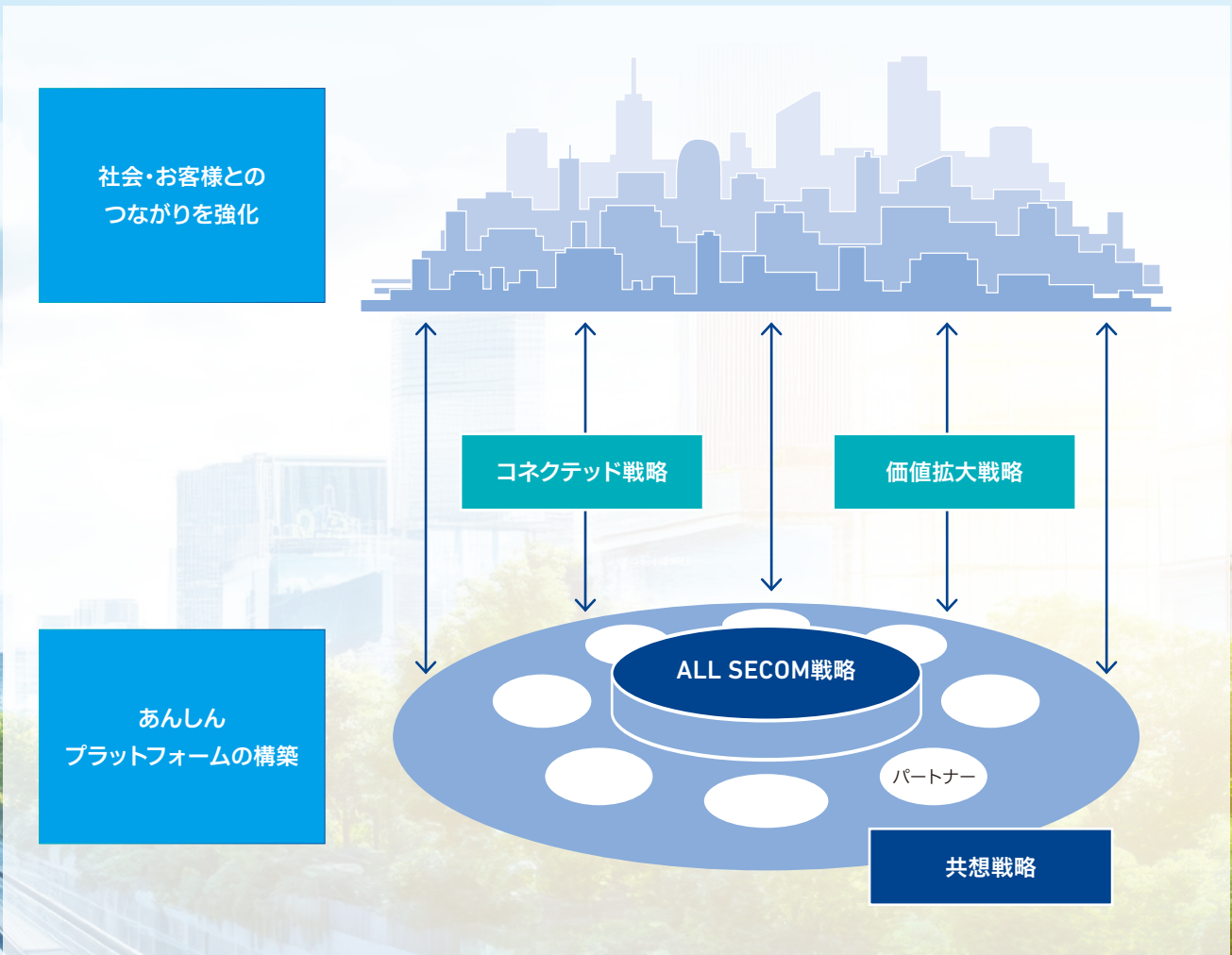


「あんしんプラットフォーム」構想実現のための戦略

セコムは、「あんしんプラットフォーム」構想の実現に向けて、グループの総力を結集する“ALL SECOM”戦略や、オープンイノベーションにより価値を創出する“共想”戦略を推進しています。また、最新の情報技術を活用したビッグデータ分析により、お客様の潜在ニーズに応え、つながりを増やしていく“コネクテッド”戦略や、付加価値として快

適・便利なサービスを提供する“価値拡大”戦略を展開しています。

海外では、日本で培ったノウハウを生かしながら、市場ニーズに適応したサービスの展開を推進しています。お客様とのつながりを強化しながらSECOMブランドの浸透を図り、「ANSHIN」を世界の共通語にしていきます。



2028年3月期をターゲットとした「セコムグループ ロードマップ2027」

近年、労働力人口の減少や高齢化の進行、犯罪の高度化、体感治安の悪化、世界的なインフレの進行、自然災害の頻発化・激甚化など、社会課題が深刻化しています。一方、セキュリティ業界は、AIやIoT、画像解析、クラウド、5Gなど先端技術の恩恵により、変革の時を迎えています。

セコムは、「セコムグループ2030年ビジョン」の実現に向け、2028年3月期をターゲットとした「セコムグループ ロードマップ2027」を2023年5月に公表しました。社会課題から生じるニーズを的確にとらえ、多種多様なパートナーとのオープンイノベーションも継続し、あらゆる場面で確かな「安全・安心」を提供しながら社会課題の解決に貢献し、社会とともに成長を続けていきます。

「セコムグループ ロードマップ2027」における5つの重点施策

あらゆる場面での「安全・安心」の提供をめざし、セコムが培ってきた高度な技術と豊富なノウハウを生かして、次の重点施策に取り組んでいます。

Road Map 2027 ー高度な技術と豊富なノウハウを活かし、あらゆる場面での安全・安心を提供ー

重点施策	主な取り組み
見守り・セキュリティ	セキュリティを中心とする新たなサービス・ソリューションの提供 - みまもりクラウドを活用し、様々な情報を連携することで、切れ目のないみまもりを実現 - 堅牢なセキュリティとオープンなクラウドを融合させたビジネスインフラへの進化
海外	市場拡大が見込まれる海外市場で更なる成長を実現 - セキュリティ・メディカル分野における既存ビジネスの深耕 - 未進出地域・新規分野における新たな事業ポートフォリオの拡大を推進
BPO・ICT	お客様の事業運営を支えるインフラ基盤を提供 - サービス提供基盤としてのデータセンターやネットワークの拡充 - 円滑な事業運営を支える各種ソリューションの拡充、BPOサービスの提供
生産性向上	サービス価値の最大化と業務効率化を通じて生産性向上を推進 - これら重点施策の実行により、新たなサービスを次々と提供し、サービス価値を最大化 - 最新の技術を活用しながら、社員一人ひとりのポテンシャルを引き出し、業務効率を向上
ステークホルダー	ステークホルダーから選ばれ続ける会社づくりを推進 - 従業員エンゲージメント向上等の環境整備を通じ、人財の確保・育成を継続的に推進 - 全てのステークホルダーから信頼される存在になるためのサステナビリティ活動の推進

「セコムグループ ロードマップ2027」の進捗

見守り・セキュリティの進化	最近の取り組み
みまもりサービスのさらなる進化 AIやクラウドといった技術を活用し、日常生活のあらゆる場面で「安心」を提供するため、ホームセキュリティとみまもりクラウドの連携により、高齢者や家族、介護事業者等に向け、様々なサービスを展開していきます。	「Apple Watch」の転倒検出機能と連携、日常の健康管理もサポートする「YORiSOS」アプリを配信(2023/4開始)→P33 - セキュリティ事業で培ったオペレーション体制やデジタル基盤を生かした「セコムらしいヘルスケアサービス」の提供をめざし、専門部署を設置(2024/2)→P33 - 窓の防犯・防災に「SECOMあんしんガラスSG」を発売(2024/5)→P33
堅牢なセキュリティとオープンなクラウドの融合 事業所向けのシステムセキュリティ「AZ」シリーズを軸に、「オープンなクラウドサービス」の充実を図り、セキュリティサービスからお客様の事業運営を支える「ビジネスインフラ」へと進化させていきます。	最近の取り組み 「AZ」「AZ-Air」による新たな画像監視サービス「インタラクティブセキュリティサービス」(2024/7開始)→P32 - ロボットとの相互連携規格「SECOM AZ Certified」を確立し、他社製の清掃ロボットとの連携による運用を開始(2024/6)→P32
安全商品のSaaS化 セコムのノウハウを生かし、オンライン・セキュリティシステムを補完する安全商品を、安全・高度・シンプルな「クラウド時代のサービス」へと進化させていきます。	最近の取り組み - 暴力行為や急病行動をAIで検出し、お客様の監視卓等に通知する「セコムAI行動検知システム」を提供開始(2024/6)→P32 - AI機能を組み込み、設定エリア内の異常を検知・通報する「セコムAIカメラ」を提供開始(2024/6)→P32
警備業界のDXを推進 セコムのシステムやノウハウを、想いを共にする業界各社へ提供することで警備DXを推進し、地域や社会全体の「安全・安心」の品質向上を牽引していきます。	最近の取り組み - セキュリティロボット「cocobo」が公道や公開空地での活用が可能に(2025/4)→P32 - 警備DXへの取り組みを組織的に加速するため専門部署を設置(2025/4)→P33
海外事業の強化 市場拡大が見込まれる海外でのさらなる成長に向け、セキュリティとメディカルの分野における既存ビジネスの深耕とともに、未進出地域・新規分野における新たな事業ポートフォリオの拡大を推進します。セコムブランドを世界に浸透させオーガニックな成長を加速するとともに、各国パートナーとの協業やM&Aの活用により海外売上高比率10%をめざします。	最近の取り組み - 北米を中心にクラウドを活用してSaaS事業を展開する世界的セキュリティ企業Eagle Eye Networks社およびBrivo社に出資(2023/5)→P35 - 少子高齢化が社会課題となりつつあるタイやマレーシアで見守りサービスの販売を開始(タイ:2024/3、マレーシア:2024/7)→P35 - グローバルセキュリティSI事業を展開するAVTEL社の完全子会社化に合意(2025/7)→P35 - インドのベンガルールに先進医療も提供できる第2病院を建設(2028開院予定)→P39

BPO・ICT事業の強化

サービス提供基盤としてのデータセンターやネットワークの拡充に加え、円滑な事業運営を支えるSaaSソリューションや業務効率向上に寄与するBPOサービスを拡充・開発します。セコムの情報セキュリティ技術や24時間365日のオペレーション体制を中核に、お客様の事業運営をデジタル面で支えるインフラ基盤を提供していきます。

最近の取り組み

- ・(株)アット東京の新データセンター(CC3)がサービス開始(2024/7)→P43
- ・(株)アット東京では、アルテリア・ネットワークス(株)との協業により、お客様拠点からクラウドの閉域接続ができる「ATBeXクラウドアクセスType-A」の提供を開始(2024/10)→P43
- ・セコムトラストシステムズ(株)がデータセンターを増設予定(2025/10)→P42
- ・お客様のセキュリティリスクと運用負荷を軽減する「マネージドEDRサービス」、セキュリティリスクへの早期対処を可能にする「アタックサーフェス調査サービス」の提供を開始(マネージドEDRサービス:2024/9、アタックサーフェス調査サービス:2024/12)→P43
- ・人とデジタルによるハイブリッドコンタクトセンターへの変革に向けて「TMJ Generative Solution」を提供開始(2024/7)→P43

生産性向上

最新テクノロジーを活用しながら、一人ひとりのポテンシャルを引き出すことで、業務効率を高め生産性向上を推進します。テクノロジーを生かした新たなサービスを次々と展開することでサービス価値の最大化を図ります。

最近の取り組み

- ・現場の業務量の適正化
- ・組織の改編
- ・生成AIの活用などプロセスの見直し
- ・社内ITシステムの刷新

ステークホルダー重視

社員の多様性拡大、well-being向上、能力の向上開花のための環境整備に取り組み、新しい「安全・安心」を提供し続ける企業であるために、人財の確保・育成に継続投資します。すべてのステークホルダーから信頼される存在であり続けるために、経営戦略とサステナビリティの一体化を加速していきます。

最近の取り組み

- ・定期昇給、4年連続ベースアップ、諸手当の充実などによる処遇改善
- ・社員への譲渡制限付株式を2年連続で付与
- ・女性の職域拡大と女性リーダーの育成
- ・社内外の研修・教育機会の提供拡充
- ・セコム専用の太陽光発電所を活用した再エネ利用を開始(2024/3)

財務戦略と定量目標

健全な財務体質を維持しつつ、ROE10%の実現に向けて、利益の成長と自己資本の適正化を図ります。株主資本コスト(5~7%程度)を意識した成長投資を推進するとともに、配当性向45%前後を目標とする継続的な増配と適切なタイミングと規模での自社株買いによる株主還元を行って

いきます。

今後もセコムは、投資家の方々と建設的で質の高い対話の機会を充実させ、2028年3月期に向けた「セコムグループロードマップ2027」の定量目標の達成と企業価値の向上に取り組んでいきます。

ご参考までに、日本会計基準による2028年3月期の目標を以下に記載します。

	2025年3月期実績	2028年3月期目標
連結売上高	11,999億円	12,500億円以上
連結営業利益	1,443億円	1,600億円~1,800億円
配当性向	37.5%	45%前後
ROE	8.7%	10%